



収蔵資料の紹介⑧

## いん石



1階寄贈品コーナーにて展示中



### 「隕石」(いんせき)

隕石はもとをただせば地球と同じように太陽のまわりをまわっていた小さな惑星です。たまたま地球がそのコースを横切る時に小さな惑星が通りかかり、地球と“衝突”し、地上に落ちてきたものです。衝突の際スピードは1秒間に数十kmというものすごい速さのため、空気とのまさつでごく小さなものは流れ星になって消えてしまいます。それでも地上には1年間に2万個の隕石が落ちてくると計算する天文学者もいます。

今回展示する隕石は、見本として購入したものと寄贈されたものです。

- Nuevo Mercurio隕石(石質)  
(写真 左下)  
1978年メキシコに落下した隕石
- Diablo 隕鉄 (写真 上)  
およそ7万年前にアメリカのアリゾナに落下したといわれる隕鉄片
- Allende隕石 (写真 右下)  
1969年メキシコに落下した炭素質隕石
- Henbury隕鉄  
オーストラリアヘンバリー隕石孔で採集された隕鉄片 榎川島雄氏寄贈

# ♣ ♣ 5月の行事 ♣ ♣

1	水	
2	木	
3	金	(憲法記念日・休館日)
4	土	プラネタリウム、天体観察会
5	日	(こどもの日・休館日)
6	月	(休館日)
7	火	
8	水	
9	木	デッサン教室
10	金	デッサン教室
11	土	プラネタリウム、古文書講読会 土曜観察会、石仏を調べる会
12	日	プラネタリウム
13	月	(休館日)
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	プラネタリウム、土曜観察会
19	日	プラネタリウム、自然観察会 緑の国勢調査(合同調査)
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	プラネタリウム、石仏を調べる会
26	日	プラネタリウム 体験学習「わらじを作ろう」
27	月	(休館日)
28	火	緑の国勢調査(合同調査) 星を見る会
29	水	
30	木	
31	金	(休館日)

## プラネタリウム

投影日	券発売開始時刻	回	投影開始時刻
土曜日	朝9時より 第1回、第2回の 券を同時発売する	第1回	14:00
		第2回	15:30
日曜日	朝9時より 第1回、第2回の 券を同時発売する	第1回	11:00
		第2回	14:00
火曜日	学校専用		
水曜日・木曜日	学校・団体専用		

- 観覧料 1人 100円
- 所要時間 1回 45分
- 定員 128人

### ○一般投影のテーマ

#### 「星の誕生と死」

夜空にかがやく星たちは、無限にそのかがやきを保つものではありません。いつかは、そのエネルギーもつきて、消えてゆくのです。

星のかがやくしくみと、その一生について、考えてみましょう。

### ○ようちえん向け投影

6月20日～7月11日の金曜を除く平日に、ようちえん団体向けのプラネタリウム投影をします。観覧の予約とお問い合わせは博物館管理係まで



## 休館のお知らせ

博物館は、6月4日～14日の間、全館くんじょう(ガスによる殺虫消毒)をするために休館します。期間中はご迷惑をおかけしますが、ご了承下さい。



## ★☆☆行事案内☆☆★

### ●寄贈品コーナーの展示

#### 「新しい資料の紹介」

生物・地質・天文関係で、最近博物館資料に加わったものたち（鳥やけもののはく製、くじらの骨の化石、隕石等）を紹介します。

### ●体験学習「わらじ」を作ろう

むかし、旅やさまざまな仕事の時にはいた「わらじ」を作ってみましょう。

日時 5月26日（日）10～15時

場所 博物館科学教室

申し込み 5月16日までに、往復はがきで博物館まで。多数の場合は抽選で30名までとします。

### ●星を見る会「月を見よう」

日時 5月28日（火）18～20時

場所 博物館科学教室～屋上

参加自由。科学教室集合。

博物館にある望遠鏡で、上弦（半月）をすぎた月面を観察しましょう。

### ●自然観察会

#### 「酒匂川の鳥と植物」

酒匂川下流の川原で、植物や、チドリ、コアジサシなどの鳥の観察をします。

日時 6月2日（日）9時～16時

場所 小田原市飯泉付近

申し込み 往復はがきで、5月25日までに博物館へ。多数の場合は、抽選により30名までとさせていただきます。

### ●土曜観察会

#### 「自然の新聞を作ろう」

日時 毎月2回 土曜日の14時～17時

5月18日 花水川原の虫たち

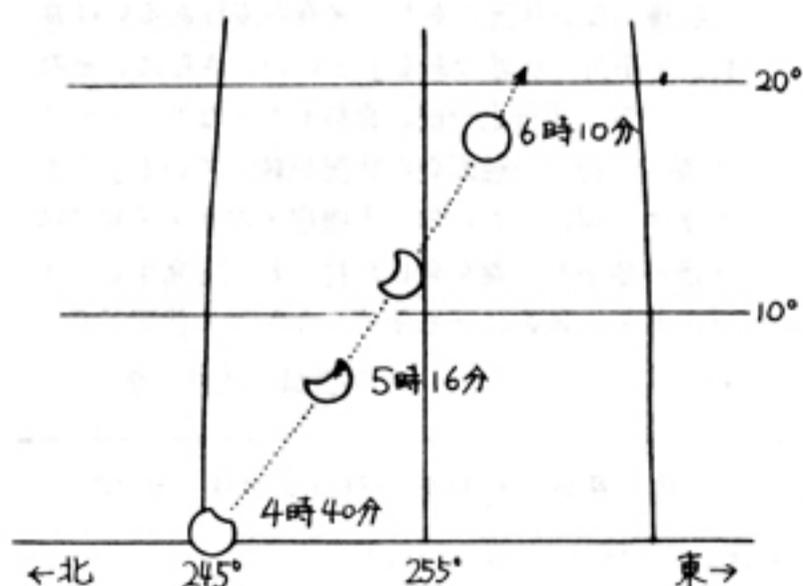
6月 8日 カエルの声を聞く

6月22日 新聞作り（博物館）

申し込み 参加希望の方に、予定表と手引きを送付します。60円切手を同封し、博物館までお申し込み下さい。

## ★日食・月食を見よう

### ▼5月20日の部分日食



今月は、日食と月食がそれぞれ一度ずつ起きます。ともに早期のできごとになるので、早起きして見てみましょう。

5月5日の朝は、皆既（かいき）月食です。太陽の光を受けて輝いている満月が、地球の影の中にすっぽり入ってしまうものです。月が欠け始めるのは5日午前3時17分で、4時22分には皆既食（すべて欠けてしまう）になり、そのまま西に沈んでしまいます。

5月20日の朝は部分日食です。太陽の一部を月がかくします。日の出は4時半ごろですが、この時すでに太陽は欠け始めていて、5時16分には太陽の約50%が欠けます。まぶしくないように工夫して、欠けかたの変化を観察して下さい。6時すぎには、食が終わります。

## 5. 飢饉

天保五年（1834）の元日、広川村に「疫病神の詫状」と称する文書が一通残されています。

当時は、いわゆる天保飢饉の最中で、多くの村が飢えと悪疫に悩まされ、困窮の極に達していたときでした。そこで当時の人々は、飢えと悪疫から逃れるため、今から思えば迷信の一言で終わってしまうようなこと、すなわち、飢えと悪疫を疫病神にたとえ、擬人化した疫病神に詫証文を書かせ追い出しを策したのです。広川村の「疫病神の詫状」とはそうしたもので、当時の状況がいかに厳しいものであったかが想像されます。

長雨・干ばつ・風虫害・冷害などにより農作物が実らず食物が欠乏する飢饉は、江戸時代には前後35回におよび、なかでも享保・天明・天保のそれは三大飢饉として有名です。享保飢饉の被害は、当市域ではそれほど直接的なものではありませんが、北金目村の年貢量を大きな災害による引分のなかった元禄期の年貢量に比べ、享保期のそれは、米八石余の減少が認められています。

天保飢饉については、天明三年（1783）南金目村「手びかへ帳」に、「天明三卯年大不作、大概皆無に成る」とあり、広川村では、「何十年にも覚えのない大凶作」、西海地村では、「田畑いたって大凶作、天明四年春の食料にも差詰り」とあり、下入山瀬でも「天明四年春の食料を色々工面したとしても1か月分にしかない」とその窮状を訴えています。天明期の飢饉は、六年・七年の飢饉が最もひどく、天明六年七月に、米が一両で八斗買えたものが、七年二・三月では、一両に三斗五升まで値上りし、同年八月、一両で七斗五升買いに回復するまでの間、江戸を始めとして都市市民の打壊しが相次いで起ったといわれます。

天保飢饉の資料は、まず、天保四年（1833）十一月、広川村「覚」に、広川村・久松村の両村が「格別不作」であるとの記録を最初に、各村々に残されています。天保四年は、六月から異常低温が記録され、八月に大風雨にみまわれ、農作物の不作が決定的となり天保の飢饉がはじまります。

農作物の不作のうち特に米の不作は著しく、買値、売惜みが横行し米価吊り上げの原因となったほどです。天保七年（1836）九月、南原村の記録には、同年の飢饉の様子を次のように伝えています。「四月から雨が降続き、暑いさかりにも晴の日はなく、穂出しの時節には冷気で、実のりのほども覚束なく、しかも七月より数度の大暴風雨が吹き荒れ、摺れ穂・青揃立となって喪米が多く、畑の粟・稗・大豆・木綿など吹きつぶされ全く収穫がない状況にあり、米春の麦作あるいは食料にも事欠く状態である」といい、さらに、そのことから、「世上一統、食料もなくなり、とかく人氣不穩で一触即発の状況が続いている」とあります。現に、この年、大磯宿・厚木・子易では米価の値上りに端を発した打こわしも発生し、米はもちろん雑穀に至るまで、底をつく状況が長く続いたのです。（学芸員 土井 浩）

疫病神の詫状（天保五年・広川村）